

令和6年度 園評価・関係者評価書

1. 教育・保育目標

◎自立する ◎自立したうえで社会と調和して暮らす ○どんな時でも希望を見出す力を育む

2. 本年度の重点目標

◎自分らしさを発揮し、主体的に生活することも目指して

3. 自己評価結果(達成状況)【A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況・改善の方策	評価
園 運 営	○職員の資質向上 ・実践的指導力の向上 ・計画性のある研修の実施 ○園務分掌の適切な機能と責任体制の整備	・職員が主体的に園内研修を計画し行った。 ・昨年以上に公開保育や、ZOOMで他県、他市の園とも交流し、お互いに学び合う機会を設けることができ、刺激を受けることができた。今年度は、自園でも公開保育を行い、環境を整えたり、丁寧な保育や流れる日課についての学びがあった。 ・1月に職員の親睦も兼ねて、園内研修を行った。職員も子どもたちもわくわくできる園づくりを考えるきっかけになり、今後はその研修を通して、自分たちで理念を考え、その理念を元に職員間で話し合える仕組みづくりをしていく。また副園長を置くことで組織力を高める。	B
教 育 課 程	○興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活の工夫 ○友達と十分にかかわって展開する生活の工夫 ○幼児の主体性を大切に指し導 ○幼児一人一人の発達の特性を踏まえた指導方法の工夫	・子どもが主体的に遊ぶための時間・道具・空間を整えた。年齢でも成長は様々なので、幅広い層で興味関心が持てるような玩具を準備し、温かみのある部屋作りを心掛けた。 ・子どもが興味を持っていることから遠足場所を選び、共通の体験を通し役割遊び等遊びが広がるようにした。今後更に子どもたちで遊びを広げていく為に、子どもの声を聞き、保育教諭がどのような声にかけていったら良いか研鑽していく。またカリキュラムの見直しを行い、クラス職員が共有しやすくする。 ・様々な研修を通じ、多様性を受け入れることの大切さを学び、自分たちの価値観で子どもに声をかけることがないように心掛けた。	B
子 育 て 支 援	○「親と子の育ち合いの場」としての役割や機能の充実 ・未就園児や保護者への園庭開放 ・子育て相談、講座等の開催 ○一時預かり・延長保育の実施	・「子育てひろば」を「すみれカフェ」という名前に変更。保護者が主体的に動いてくださり、参加者が増え続けた。子育てアドバイザーの先生を交え、育児について話ししたり、小学校の情報交換等しながら親睦を深める場となっている。保護者側から「すみれカフェ」をもっとアピールした方がいいという意見も頂いた。 ・4、5歳児親子対象かまどご飯塾で「免疫力を高める食事」の話をしてくださり、食への関心が高まった。 ・懇親会で、日頃の疲れを癒していただけるように「ヨガ」の時間を設けたり、食事をする時のポイント、わらべうたを紹介するなどして家庭でも役立てていただけるようにした。 ・魚が土曜保育の希望も、可能な限り、快く引き受けるようにした。	A
安 全 管 理 保 健 管 理	○園舎の安全安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の安全管理能力の向上 ・危機管理マニュアルの周知徹底と活用 ・防犯、防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、疾病予防、健康診断の実施	・老朽化してきた園遊具は撤去したり修理し、安全に努めた。 ・警察官に不審者役をしていただき、年2回不審者対応訓練を行った。その際に、訓練の振り返りやさまざまな点検の指導も受けた。来年度は、園庭入り口を錠錠できる門扉に替えて、防犯に努める予定。 社会福祉協議会主催の災害時合同対応訓練で震度5以上の地震を想定し、自園で4・5歳児親子にも協力を得て訓練を行った。そのことを機に災害本部を直ぐに設置できるように工夫し、必要書類を整備したり、災害時に必要な蓄電池や飲料水、簡易トイレを整えていくことができた。次年度も職員の役割を代え、被害想定をかせ訓練を続けていく。なにより、公開で行えたということが、意味あることだと感じている。	A
道 徳 ・ 人 権 教 育	○幼児の体験や経験を通じた、人権意識や道徳の芽生えの育成 ・命の大切さにふれる体験の重視 ・思いやりの心を育む環境の工夫 ・豊かな感性、様々な気づきを育む環境の工夫	・カトムシや野菜の世話、また牛のエサやりや乳搾り体験、鮭の捌き方教室等で命を考える機会を持った。 ・「木育」を通じ、環境を考えたり、木に親しみ木の文化への理解を深めることができた。 ・異年齢交流が現在の日課では難しい為、次年度は日課を見直す。 ・「かまどごはん塾」で洗米、薪割り体験、火吹き体験ができ、自分たちが魚屋に行き、注文し、捌くところを見せていただいた鮭と自分たちが作った浅漬を保護者と一緒にご飯に食べることができたということはとても豊かな時間だったと思う。今後もさらに食育に力を入れていく。 ・保護者からの要望もあり、今年度から年長児に向けセーフティーンの話をした。	A
特 別 支 援 教 育	○一人一人の特性や発達課題に応じた支援 ○専門医療、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	・2ヶ月1度の子ども一人一人の特性に対しての研修や、同法人の児童発達支援センター「なでしこ」、訪問支援の先生と連携をとり、成長を見ることができた。 ・医療福祉センター「きずな」や「なでしこ」で療育を行っている園児に対しては、療育の見学に行かせていただき、連携を図った。 ・健康課「ねひめキッズ(児童療育室)」にも相談ののっていただき連携を図り、保護者を関係機関に繋げることができた。 ・支援に使うスケジュール等、園と家庭が同じものを使えるようにした。 ・不安に感じた部分は小学校に相談させていただいたり、保護者と見学に行かせていただいた。	A
家 庭 ・ 地 域 ・ 他 校 種 と の 連 携	○信頼される園づくり ・情報の発信、受信 ・園行事への積極的な参加の推進 ○地域の特性に根ざした園づくり ・教育資源の活用(文化・人材・施設・自然) ○小・中・高との連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流 ○実習生の受け入れ ・人材育成の施設としての役割遂行	・インスタグラムを始めた。ホームページ制作の話は進んでいるが、次年度自分たちで理念等を考えていきたいため、保留にしている。 ・パン屋、魚屋、ホームセンター等自分たちで食べる物、育てる物を買に行き、社会を知ることができた。また、小学校の体育館をお借りすることで、幼児クラス「親子体操」を企画することができ、触れ合いの時間を持つことができた。 ・他園との交流をし、少しでも円滑に小学校へ行く事ができるようにした。小学校にも運動会の練習風景を見せさせていただいた。今後、園に卒園生(5年生)を招待し、交流を通し1年生登校時の不安が少しでも和らぐようにできないか考えている。 ・高校生ボランティア・実習生・インターンシップの受け入れを積極的に行った。 ・実習生受入マニュアルを作成し、職員間で同じ対応ができるようにし、職員の意識を高めた。	B

園名 北条東すみれこども園

4. 自己評価方法の適切さについての関係者評価

・評価の基準が分かりませんが、内容から判断しますと、厳しく評価されているように思えます。厳しい方が、今後の園運営にプラスになると思います。
・保護者アンケートを実施し、丁寧に自己評価を行っている。評価結果についての分析や改善策もまとめられており、適切である。 保育教諭をはじめとする園職員を対象にしたアンケート調査を実施したかどうかは不明である。職員目線の自己評価も必要だと思う。

5. 評価の観点ごとの関係者評価

園自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
・職員の外部研修、キャリアアップ研修を多く重ねられ、また、公開保育も行われ、よりよい園を運営しようとしている所が評価できる。副園長を置かれることは、組織力ができ、園長は広く全体が把握でき、評価できる。評価は「A」で。 ・園の基本理念や、教育、保育目標を目指して職員が協働して保育を実践している。園内外での研修が充実しており、職員は自己研鑽を積み重ねることができる。運営方針が明快で保護者からの信頼を得ており、評価は「A」で良いと思う。 ・過去2年間の評価書の内容との比較において、園の取組み欄がより具体的な内容になっている印象を受けた。園としての方向性がより、具体化している表れともいえるのではないかと。 ・園としての理念や、方向性を職員間でより共有できる印象を受けるし、実践されていると思うが、過去2年の「A」評価から「B」評価になったのはなぜか？何か理由があるのであれば、その方策を具体的に示されていれたいと思う。 ・幼児の主体性や幼児一人一人の発達の特性を踏まえた教育課程が編成され、実践する中で見直しを行うという点は評価できる。評価が「B」になっているのは、保育教諭一人一人の指導力の更なる向上を期待しての事であらう。 ・園児皆が遊べる積み木等を購入され、園児が主体的に遊ぶように工夫されている所が評価できる。 ・遠足場所の選び、遊びの内容で園児の声を聞かれ、園児中心に考えられている所が評価できる。
・「子育てひろば」を「すみれカフェ」と親しみやすいネームに変えられ、保護者との距離を縮め親睦を深められていることが評価される。気楽に参加できることをもっとアピールしてください。 ・園の散歩の時、園児一人一人に温かく接しておられるのを見かけました。よいことですね。 ・「すみれカフェ」の取組みが面白い。子育てについて、気軽に相談できる人がいない保護者もあるもので、有意義な場になることが期待できる。子育て相談や保護者向けの食育、一時預かり等子育て支援策が充実しており、「A」評価は適切である。 ・様々な活動が推進されており、それにより、園と保護者、そして保護者同士の関わりも深まっているのではと感じる。
・防災訓練で年度毎に職員の役割を代え、いろいろ経験して、何に対しても直ぐ対応できるように努めている所が評価できる。 ・園の遊具等の点検、防犯対応(園庭入り口の錠錠)を進められている所も評価できる。 ・常に安全管理と保育環境の向上に取り組んでいる。こども園開設以来、防犯カメラ設置、フェンスの修理、遊具の修理等環境の改善は顕著である。また不審者対応の訓練や災害対応の訓練も定期的に実施されている。訓練は園児のパンク防止と職員の対応力向上に不可欠である。防災グッズの整備も進んでおり、評価は「A」で適切である。 ・安全対策や災害時対応への備えは、毎年着実に整備されている点は高く評価できる。その姿勢は子どもや保護者の安心・信頼にもつながると思う。
「日常」を大切にし、子どもの自発的な意思を尊重されている。また、生き物や食を通じた教育は、興味深いし、保護者にとってもありがたいのではないかとと思う。 ・異年齢との交流についての記述が特になかったが、保護者アンケートでも満足度が高い印象。(運動会等、行事を通しての交流が増えたりは良いのでは) ・多様な経験(自然体験、生活体験、社会体験)は豊かな心を育む。すみれこども園は、体験活動が充実しており、園児は体験を通して心豊か子どもにも成長していく事だろう。わらべうたや童謡を取り入れた保育も心を育む取組であり、評価は「A」で適切である。 ・様々な体験を通じて命を考える機会を作られているところ、魚屋での体験、かまどご飯の体験等、園児が様々な体験をすることにより、豊かな感性、思いやりの心が育むようになっている所が評価できる。
・研修や療育の見学に行かれ、レベルアップに取組まれている。 ・「きずな」や「なでしこ」「ねひめキッズ」など関係機関と連携して、園児一人一人の特性に応じた支援や保育の実践に努めているところは評価できる。支援の実際を十分に把握していないので「A」評価が妥当かどうかの判断は避けたい。 ・取組みに関しては問題なく「A」評価で良いと思う。 ・今後の課題や方策については、何かなかったのか？
・地域との繋がりや他園との交流がより進んでいると感じ、大いに評価したい。今後さらに2号・3号園児や外国籍園児の増加も予想され、より家庭や小学校との連携も必要になってくるであらうと思う。 ・インスタグラムやHPについては、時代の流れではあると思うが、職員の負担にならないよう配慮が必要と感じる。 ・園だより、クラスだより、保健だより、食育だより、よい子ネット、インスタグラム等で積極的に情報を発信している。保護者アンケートでも「園の情報発信」や「先生と話し合う機会」について保護者の満足度は高い。また、地域の公園やお店、地域の人材を活用した体験活動が充実している。私立と公立の違いから幼小連携に難しさがあるとは思いますが、すぐ園・小学校があることで、より幼小交流を充実させたい。 ・他園との交流、小学校との交流等できる限りの交流に取組まれ、園児の小学校への不安を和らげられるように考え、取り組まれている所が評価できる。また、十分ではないようなので、来年度も頑張って取り組んでください。 ・園だよりやクラスだよりで園の様子や方針、情報をよく発信されているところが評価できる。